東京外国語大学
留学生日本語教育センター論集　20：29～41，1994

「～としている」の機能について

金　子　比呂子

（1993．11．1受）

はじめに

本稿では，「Xている」のXには情報性の高い内容がくるという条件に着目し，特に語用論的な観点[1]から，「ている」には情報を保持する機能があり，さらに引用の「と」を添えた「～としている」には保持した情報を取り次ぎ，他者に提供する機能がつけ加わって，伝聞表現として使われるに至っているという仮説を立て，それを実証してみたい。

1　「毎日　xる」と「毎日　Xている」

初級日本語で，いわゆる相（アスペクト）の「Xている」を教えることは，大きな目標の一つである。寺村（1984）によれば，「Xている」は現在五官で（典型的には視覚で）捉えた事態を，現在より以前のいつかに実現したことと結びつけて理解するところから生まれた表現の形だということだが，従来それはXにくる動詞によって基本的に大きく「継続」と「結果」という二つの意味にわかれるとされてきた。しかし，Xにくる動詞の種類以外の条件によって「ている」という形が選ばれている場合もあるのではないだろうか。

例えば，習慣を表す「毎日，Xている」という文型がある。これを，繰り返しから習慣を表すようになった「ている」だと学生に教えると，それ以前に教えた「習慣」を表す「毎日，xる」との使い分けについて説明を求められる。学生は，この文型を「習慣」を表す「ている」の文型だと習っただけでは，既習の「毎日，xる」に対する「毎日，Xている」の使用の必然性といったものを感じることができず，何か釈然としないのだろう。さらに，教師が「毎日，Xている」のXには「寝ている」といった当たり前の事柄はのせられないとつけ加えるに及んで，ますます納得がいかなくなるようである。

そこで，この文型を教える時には，以下のような問答法によって，二つの文の焦点の当て方の違いに触れることにしている。

Q：Aさんは教会へ行きますか，行きませんか。〈行為を確認する〉

A：行きます。

Q：何回ぐらい？／どのぐらい？　行きますか。〈頻度を尋ねる〉
　毎週（日曜日に），行きますか。（A：毎週，行きます。）
Q：Aさんは毎週（日曜日に）どんなことをしていますか。〈説明を求める〉
A：毎週（日曜日に）教会へ行っています。

「行くか（行かないか），どのぐらいの頻度で行くか」の答えが「毎週，行く」であるのに対して，「毎週，どんなことをしているか」の答えが「毎週，教会へ行っている」であるとすれば，当然，前者より後者の方，つまり，「毎日，xる」のxより「毎日，Xている」のXの方に，より分析的な，情報性の高い内容が期待されていることになる。(2) そのXに「寝ている」などと当たり前のことを入れるとおかしくなるのは，この情報性のルールに違反するからである。

かつての首相，吉田茂（1878～1967）は何かと逸話の多い人物だったが，「いつもお若いですね，秘訣は？」と聞かれて「なあに，毎日，人を食ってるからね」と答えたという有名なエピソードがある。この場合，「なあに，毎日，人を食うからね」と答えたのでは，やりとりが成り立たなくなってしまう。「人を食っている」というのは一種の慣用句であるから，ちょっと特殊ではあるが，「いったいどんなことをしているのか，その秘訣をあかしてくれ」と求められた結果の答えである以上，情報性は高いはずである。したがって，この答えが「ている」の文型で表現されていて，かつ「る」の文型で答えるとおかしくなることは，「ている」の前には情報性の高い内容がくるということの一つの証拠である。

文法的に考えても，現在，未来といった時制，また場面，文脈によって意志，真理などいろいろな意味を表しうる「る」形に比べて，「ている」形は時制，機能が固定されている分だけ，より情報に重きが置かれるようになるのは当然であろう。例えば，「おたくからもらったプルーン，毎日食べてます。」という文の「食べてます」を「食べます」に換えると，自分の特別な習慣を聞き手に伝えるという当初の文の機能が，話者の意志，決心を宣言するという機能に替わってしまう。反対に「体にいいこと何かしてる？」という質問に対して，「毎日，食べてる」と答えたのでは相手を怒らせるだろう。

したがって，「毎～xる」と「毎～Xている」はx，Xにくる動詞の種類にかかわりなく，「る」形と「ている」形の対立に対応してxの叙述とXの叙述の情報性の高さに対立があることが指摘できる。(3) このことを，上記のような例から帰納的に考えると，前により高い情報を要求する「ている」には，情報を蓄える機能があると言える。「ている」のもっている時間的な幅が受け皿になって，情報性の

高い内容を受け入れ，そのまま保持できるということであろう。

2　「（ｓは）Ｐと言っている」

「る」形より情報性が高い内容を要求する「ている」形という仮定は「毎～Ｘている」の場合以外にも成り立つ。

(1)　ジョンさんは国へかえりたいと言っています。

(2)　ジョンさんは自由な時間がほしいと言っています。[4]

主語が，一人称なら「たい／ほしい」でいいのだが，三人称であるため「言っている」を付加したのが(1)(2)である。「言っている」の「ている」は，主に「～と書いている」の考察から吉川（1971）らによって，「結果の状態からの派生で，経験を表す」とされてきた。しかし，この「ている」を経験の「ている」だと説明しただけでは，日本語教育の現場で学生に「言う」でも「言った」でもなく，「言っている」でなければならない必然性を理解させることは難しい。

両者とも，前にジョンが言ったことが残っているという意味での「ている」形（経験）と説明できるが，ジョンが何度も言っているという繰り返しの「ている」であるという解釈も成り立つ。だが，どちらにしても，要は，「言う」という動詞にもはや焦点はなく，何らかの要請に応えて，話し手が「Ｐと言っている」という形で情報Ｐを提供しているということである。つまり，これらの文では，「言う」という動詞が「繰り返し」なり「経験」の「言っている」にいわば静的に固定されることによって，その動的な面を失い，「と」の前のＰを提供するための形式になっている。「ジョンさんは国へかえりたいとのことです。」の「とのことだ」のように「と言っている」はあたかも一つの現象化した行為か，傾向を指し示す複合述語のようになっている。そして，その分，文の焦点は「と」以前のＰに移っている。そこで，例文(1)が引き出されるために，どんな疑問文が考えられるか，列挙してみたが，特にフルセンテンスで引き出されるためには，現象化している情報を尋ねるＱ５が最も適当だと思われる。いかがなものだろうか。

Ｑ１：ジョンさんは国へかえりたいと言っていますか。

Ａ１：はい，そう言っています。

Ｑ２：ジョンさんは何か（何が）したいと言っていますか。

Ａ２：はい，国へかえりたいと言っています。

Ｑ３：ジョンさんは何か（何と）言っていますか。

Ａ３：はい，国へかえりたいと言っています。

Ｑ４：誰かが（誰が）何か（何と）言っていますか。

Ａ４：はい，ジョンさんが国へかえりたいと言っています。

Ｑ５：最近学校の中でどんなこと（現象，傾向）がありますか。

Ａ５：ジョンさんは国へかえりたいと言っています。マリアさんは…

（同様に，(2)が引き出されるための最も適当な疑問文は「この頃学生はどんな状態ですか。」であろう。）

したがって，Ｐという情報を「と言っている」で受ける場合も，先の「毎～Ｘている」の時と同様，Ｐには情報性の高い内容がくると言える。例えば，「彼はうわっと言っている」が変なのは，「と言った」「と言う」ならともかく「と言っている」の前にある「うわっ」に内容がないためであろう。また，留学生が時々言う「タンさんは寝たいと言っています」の説明しがたい不自然さも「と言っている」で受けているＰの情報性の低さによるものだと言えるのではないか。

3　「Ｐと説明している」「Ｐと述べている」「Ｐと話している」

「言う」の他にも，動詞の中に「と」という引用の助詞を伴って，間接話法的な文を作る動詞がある。例えば，「と説明している」「と述べている」「と話している」などであるが，これらも「と言っている」同様，「ている」の形で出てくることが多く，やはりＰに情報性の高い内容を要求するようである。

(3)　〈産業廃棄物最終処分場から悪臭を放つ汚水が流れ出していた件につき〉処理業者は「水が流れ出したのはミスだが，規定以外の有害物などは搬入していない」と説明している。朝日新聞（以下略して朝日）1993.8.12

(4)　英軍事問題専門誌ジェーンズ・ディフェンス・ウィークリー８月17日号は航空自衛隊を地域の「主要空軍力」と表現，西側最新鋭の防空システム，Ｆ15戦闘機……に加え，近く空中警戒管制機という「巨大機能」も加わるなど，一段と増強することになっていると述べている。　朝日　1991.8.15

(5)　〈発がん性の疑いのある有機塩素系溶剤による地下水汚染について〉都は「飲料水源への影響など，直接，人の健康にかかわる汚染ではない」と話している。　朝日　1993.8.12

〈　〉内は文脈がはっきりわかるように筆者がつけ加えたものである

上記の例文が示しているように，行為性が薄いためかなり形式化している「と言っている」に比べて，これらの「と～ている」は，まだ「説明する」「述べる」

「話す」という行為性を色濃く残してはいるが，新聞という情報メディアに使われることによって，「～ている」の主語として示されている情報源（それぞれ「処理業者」「英軍事問題専門誌」「都」）から情報を引き出してきて読者に提供する，その取り次ぎとでもいうべき役目を果たすようになっている。

4　「Qとしている」

4－1　「～としている」概観

上記の(5)の例文を採った記事の後半にはさらに次のような文があった。

(6)　都は汚染が進んでいることについて，「排出規制は数年前まで穏やかで，それ以前に汚染された影響だろう。新たな汚染があったとは思えない。地下水の汚染源の特定は難しく，継続して測定するしかない。」としている。

実は「と説明している」「と述べている」「と話している」の用例を新聞から探し出すのは難しく，その代わりにこの「としている」の用例を多数採集した。

(6)の場合は，(5)で既に使った「と話している」を再び使わず，情報取り次ぎ，提供の機能だけを残したいわば裸の「ている」によって，さらに詳しい情報を提供している。口を動かし声を出すといった具体的な行為をも指し示し，それ故，主語に行為主を要求する「話している」を繰り返すより，ここでは主語が「都」なので，行為性を感じさせない「している」を使った方が適当だということだろう。新聞だけでなく，ここ数年，ニュース報道番組などではこの種の「～としています」という文末表現が多用されている。

(7)　〈美浜原発事故について〉関西電力はさらに詳しく調べたいとしていますが，　……人体に影響はないとしています。」

1992.2.10.10 am. テレビ朝日　サンデープロジェクト

このようなフレーズがニュース番組に必ず一回はでてくると言っても過言ではない。だが，この種の「～としている」は，マスコミ用語とでも言うべき比較的新しい形のためか，辞書には特に記載がない。したがって，留学生にとってこの表現を理解する手だてはないのである。この「～としている」は留学生ばかりか，日本人にも意味のわかりにくい，構造的，意味的に曖昧な表現で，使用には慎重であるべきだという指摘もある。1990年9月30日の朝日新聞に「としている症候群」という記事が載っており，「（入院生活中の○○区長は）任期満了まで在

職するとしている」の類の「としている」は「霞的言い方のあいまい言語」でマスコミに広がるのは望ましくないという主旨のことが書いてあった。というのは，「としている症候群」を書いた記者は，この「としている」は「と判断」「と指摘」「と主張」などを意識的に簡略化したものだとしているからである。

だが，「する」という動詞は，一般には英語の「do」のように他の動詞の代わりに使われるものと考えられがちだが，実際には他の意味を引き受けて「する」だけで現れることは，きわめて少ないのである。[5] したがって，ここでの「している」も，他の動詞の簡略形ではなく，動詞の形態をとってしか表せない情報保持の機能「ている」を，形式化して意味が空になっている機能動詞「する」と組み合わせることによって作った新しい文末表現と考えた方が適切だろう。

以下，この「Qとしている」の特徴をさらに明らかにするために，朝日新聞紙面から採集した用例を検討してみたい。

4－2　「～と説明（定義，発表，述べている）。～としている。」

まず，先に述べたように，ここではこの「としている」が他の「完璧な」動詞の簡略形だという解釈はとらないが，(5)(6)の例文のように一度説明的な動詞を使い，それを繰り返す代わりに後の方では「としている」を使っているらしき用例が他にもいくつかあったので，記しておく。

(8)　六月にまとめられた臨調の中間意見で，〈脳死を認めないという立場に立つ梅原猛委員らの少数派が〉「臓器移植を全く認めないわけではない」と説明。一定の条件下で移植への道を開くべきだとしている。　1991.8.16

(9)　そこで，労働省は昨年つくった「パートタイム労働指針」で「通常の労働者の所定労働時間に比べ相当程度短い労働者」と定義した。具体的には，一～二割程度以上，労働時間が短い人をさす，としている。　1990.11.8.

(10)　マウン議長の訪中は，中国外務省スポークスマンが十三日発表したもので，「二国間問題と共通の関心事について幅広く意見を交換する」としている。　1991.8.14

(11)　〈マニハニ信託銀行の，米国ステート・ストリート銀行への〉営業権譲渡については大蔵省の許可が必要だが，「非公式には，よい感触を得ている」（同信託銀行）としている。売却の理由について同信託銀行は「マニハニ本社の業務の見直しの一環」と説明。九一年三月期で二億三千万円の経常利益を上げており，業績悪化が直接の原因ではない，としている。　1991.8.15

⑿　〈英軍事問題専門誌ジェーンズ・ディフェンス・ウィークリー八月十七日号は〉湾岸戦争後の海自の掃海艇ペルシャ湾派遣で生まれた機運に乗って，海部首相はＰＫＯ法案を来月，国会に提出すると述べ，日本は経済力と並行して軍事力増強を続けているとしている　1991.8.15

⒀　仙台高裁は十四日，……文書による厳重注意を行った。……仙台高裁は「〈裁判所で係争中の民事事件関係者の女性と，秋田地裁の所長並びに民事部総括判事の〉交際が審理に影響した事実はない」としながらも，「裁判の公正に対する信頼を損ないかねない行為。今後，裁判所の信頼回復に努めたい」としている。　1991.8.15

4－3　「～たいとしている」

用例⒀の「としている」は「(努め) たい」を受けている。⑺の「としている」も「……調べたいとしています」と「たい」を受けていた。そこで今度はやや観点を変えて「たいとしている」に着目すると，この用例がかなり多い。⑺⒀の主語はそれぞれ「関西電力」「仙台高裁」という機関であることから，先の「たいと言っている」が，「たい」の文の主語に一人称しかとれず，三人称（例えば，ジョン）が主語となる文が作れないことを補う手段となっていたのと同じような特徴が「たいとしている」にもありそうである。その辺をさらに詳しくみるために他の「たいとしている」の用例を以下に示す。

⒁　〈電波の有料化は拙速を避けよという主旨で〉……これだけの深く広い問題をはらむ電波有料化の方向が，「私的」懇談会で昨年九月以来わずか四回の会合でまとめられた。郵政省は電波法を改正して93年度から実施したいとしている。　1991.3.17

⒂　〈社会党は小選挙区250，二票制案を提出し〉今後，政治改革調査特別委員会の与党メンバー間で内容を調整，13日に開かれる与党各党の代表者会議で合意したいとしている。　1993.8.12

⒃　〈海外会社への「飛ばし」が盲点だった〉監視委では，海外会社を使ったケースがほかにもあるかどうか調査方法を工夫したい，としている。　1993.8.14

⒄　安保，自衛隊問題などで五党内でも立場の異なる社会党は「なんとか提案に答えられるようにしたい」（幹部）としている。　1993.7.22

⒅　日本新党の海江田万里広報委員長は「連立政権に不安を感じる人もいる

が，政治改革はいよいよ中身を詰める。具体的な景気対策も打ち出し，国民の期待にこたえたい」としている。 1993.9.10

⑲ このトラブル〈防衛庁の仮庁舎の設計図が返却されない〉に，東京防衛施設局では「別の設計士に発注したので工事の遅れはないが，設計図が勝手に外に出るということはあってはならないこと。実績もあり信用して任せていたが発注元には厳重に注意したい」としている。 1991.8.16

⒁～⒆の文ではいずれも，「たい」と「としている」の主語は一致しており，また⒀⒄⒅⒆では『「……たい」としている』と引用の部分に「」が付いていることからこの「としている」は「と言っている」にきわめて近いものと言えよう。では，両者を区別しているものは何かと言えば，「たいとしている」の主語が「郵政省（は）」「社会党（は）」「監視委（では）」「海江田万里広報委員長（は）」「東京防衛施設局（では）」というように，(7)⒀同様，機関または公人（海江田氏という個人ではなく，広報委員長という役割としての人という意味で）であり，単なる名もない個人ではないということである。特に，⒃⒆のように，主語が「は」で示されずに「（機関）では」で示されている例があることから「たいとしている」はある団体なり，機関なりの欲求や願望（「たい」にはそのような意味があるが）ではなく，もっと一般化された意向といったものを皆の前に公開する手段となっているように思う。

4－4 「Sは ～としている」「Iでは ～としている」

「たいとしている」ばかりでなく，他の「としている」も集団，機関によって公にされた情報を皆に提供していると言えるのだろうか。

⒇ 〈スパコン説明会，米が監視活動〉担当官の派遣について，米大使館では「入札過程を細かく観察したいだけだ」（商務部）としている。 1993.8.15

㉑ 日本遺族会は，中尾通産相が八日に参拝を済ませたとしている。しかし，通産相の秘書官は，中尾氏が八日に神社近くを通ったとき，敷地の外に車を止めさせ，車内から手を合わせたと説明，通産相自身は九日の記者会見で「参拝しない」と答えている。靖国神社側も「昇殿した場合以外は，わからない」としている。 1991.8.15

㉒ 〈朝鮮学校が高校野球大会に参加できることになって〉逆の立場から，日の丸・君が代問題がある。開会式などで在日朝鮮人の人たちが容認するかど

うかだ。しかし，これについて朝鮮学校側では「大会の規約，慣習を尊重するのが礼儀であり，国際エチケットでもある」としている。　1990.3.5

⑳㉑のように，主語が「では」「側」で示されているもの，特に「～側では」という形で主語を対比的に取り立てている㉒については，皆に情報の詳細を明らかにするという意図が明確に現れていて，伝聞の機能を持つに至った「としている」の感がある。さらに，情報のでどころを主語に立てて，あるいは「によると」で明示した伝聞の「～そうだ」に置き換えられそうな用例もあった。

㉓　決議は，昨年のクウェート侵攻以来続いていた対イラクの石油禁輸措置を緩和するものだが，購入に当たっては制裁監視委員会の承認を必要とし，代金は直接，国連の供託金口座に払い込むなど，国連の厳しい管理下に置かれる。また使途についても，食糧や医薬品，民生，必需物資の購入に限定し，国連が物資の配分についてまで監視・監督に当たることとしている。
1991.8.16

㉔　報告書は，使い捨ての金属缶，ガラス容器，家電製品などについて，デポジット制を行ったときの費用を試算。現状の処理費用の二倍程度の範囲に収まり，非現実的ではないとしている。　1993.7.22

㉕　〈日本興業銀行がまとめた調査リポートは〉「人余りはかつてない域に達している」としている。　1993.7.22

㉖　長期目標によると，10年後の2002年度の総電力需要は９千56億キロワット時で，年平均の伸び率は2.5倍になる。こうした需要増に応えるため，93年度から2002年度までに，供給の予備を含め８千４百52万キロワット分の発電所を完成させる必要がある，としている。　1993.7.22

４－５　伝聞の「Ｑとしている」

上記の㉖は「そうだ」に置き換えられる例である。

㉖’長期目標によると……93年度から2002年度までに，供給の予備を含め８千４百52万キロワット分の発電所を完成させる必要があるそうだ。

しかし，「としている」を「そうだ」に変えると，「ｑそうだ」と取り次いでいるのは発話者自身以外にあり得ないことだから，情報ｑは，個人的に取り次ぎされたものということになるか，個人的なつきあいの中で話題として提供されたものということになって，伝達メディアである新聞が用いるには不適当であろう。

それにしても，一部「としている」が「そうだ」に置き換えられるということは，「としている」が伝聞の機能を有しているということである。

前掲の用例を振り返ってみても，(8)「臨調の中間意見で」(9)「パートタイム労働指針で」(13)「厳重注意の文書」のように，主語以外に何らかの調査記録等が示されているもの，さらに調査，記録自体が主語となっている(10)「中国外務省スポークスマンの13日の発表」(12)「ジェーンズ・ディフェンス・ウィークリー誌」(23)「決議」(24)「報告書」(25)「調査レポート」などがあることから，そのような調査記録等を通じて，主体（主語）の意図するところを報道機関が引き出し，一般に取り次いでくれているといった図式が明らかになる。

また，上記のような伝聞の「としている」がどのような疑問文から引き出されるかというと，「……としていますか」という単純な疑問文からではあり得ず，

Ｑ１：今日どんなニュースがありますか。

Ｑ２：今日得ている何か重大な情報がありますか。

のようなきわめて情報性の高い内容を求める疑問文からであると思われる。この場合も「ている」は重大な情報を入れて読者に運ぶ容器となっているのである。

４－６　「Ｑとしている」まとめ

以上，用例の検討を通して明らかになったことが３つある。まず，引用の「と」と組み合わさっていることから，「Ｑとしている」の「している」は「言っている」「話している」などと同様，なんらかの叙述を受け入れ保持する機能をもっているということである。次に，「としている」の文の主語は機関，団体である。複数主語は，「ている」形と結びついて現象，一般的な傾向などを表す場合が多い。[7] したがって，「Ｑとしている」の場合もＱにくるのは現象化した出来事，その集団がもっている傾向，意向などである。さらに，この形を多用する新聞などの伝達メディアが，主語とおぼしき機関，団体から調査，記録などの形で客観化された情報を採ってきて，読者に提供している，そのマークとして，「としている」を使っているということが言える。一般に，新聞などではできるだけ決まったスペースに収まるようにと言葉，文型を選ばなければならないので，そぎ落とせるものはそぎ落とした結果としての形が出現することが多い。その意味では，情報として価値あることを提供しようという新聞に，高い情報を盛る器として「ている」が「としている」という形で残っているのは興味深い。

おわりに

本稿では，まず，「ｘる」と「Ｘている」の違いの一つとして，Ｘにより情報性の高い内容がくるということを指摘した。つまり，「ている」が文末として固定されることによって，文の焦点はテンスから「ている」で示される情報に移る。その結果，この文には情報性の高い内容が保持されることになったわけである。

次に，「ｓは［ｐﾀｲ/ｺﾄ］とＶる」，「ｓは［Ｐﾀｲ/ｺﾄ］とＶている」ではＶに「言う」などの動詞がくる場合，多くは後者の形になっている理由を考察した。これは，文末が「と言っている」に固定されることによって，文の焦点が「と」の前のＰに移り，Ｐに情報性の高い内容を保持することが可能になるからである。また，「言う」などの動詞がもっている「宣言する」「伝える」といった意味から，「と言っている」に，Ｐに保持した情報を積極的に知らせようという情報提供の機能が付け加わったことを指摘した。

さらに，最近報道番組などで多用されている「［Ｑﾀｲ/ｺﾄ］としている」に至っては，動詞は意味を捨象され，情報［Ｑﾀｲ/ｺﾄ］目当ての表現になっていることを指摘した。この「としている」は，言うなれば，新聞，テレビなどの伝達メディアが常に「今日，社会ではどんなことがあったか」という視聴者からの問いに情報性の高い内容をもって答えようとしているというマークである。

このような帰結は，全て有標的な「ている」が前に情報性の高い内容を要求するということから導かれたものである。補助動詞「ている」の文法的な意味の違いによって，動詞を分類し，日本語のアスペクトの諸相を明らかにしたという画期的な成果をあげた「ている」の研究に対して，このような機能面からの考察はいささか乱暴と言うべきものかもしれない。また，「ている」には情報保持，提供の機能があるといった，過剰般化とでも言うべき一般化をすることに，どんな意味があるのかとの批判もあろうが，少なくても引用の「と」を伴った「としている」に情報保持，情報提供の機能があることは用例等によって明らかにできたのではないかと思う。

我々もワープロを使うようになって経験していることだが，一行に字数制限がある時，なんとか次の一行にかからないように文を短縮しようとする場合がある。その際，縮める対象となるのは，当然のことながら，あってもなくても命題自体はあまり変わらない要素である。したがって，常にできるだけ文を短くしようとしていると思われる新聞記事などで「ている」が削れず「る」にはならないということは「ている」は「る」より有標的であるということであり，「ている」と

「る」の使い分けについて一つの提案ができたのではないかと思う。大方のさらなるご教示をお願いしたい。

ところで，レトリックの観点から「としている」は良くない表現だという意見がある。例えば，(7)「〈原発事故による放射能汚染は〉人体に影響はないとしています。」のようなアナウンスでは，誰が「〜としている」のか，断言しているのか，独断を下しているだけなのかはっきりしない。そこに，受信者は，伝達者，あるいは情報発信者の意図的な責任回避の傾向をみてとって危惧の念を抱くのであろう。レトリックの観点から，この表現に本当に責任回避の意図があるのか，その辺の考察を今後の課題としたい。

注

(1) リーチ（1983）は，特定の場面や話し手，聞き手からは抽象されて，純粋に問題となる言語における表現の有する特性として規定される意味論での意味（What does X mean?）と，言語の話し手ないしは言語の使用者との関連で規定される語用論での意味（What did you mean by X?）とを区別している。ここでは，「ている」の意味を，後者，つまり「ている」によって表されているのは何かという観点から扱ってみたい。

(2) 寺村（1984）も基本形（Yる）と〜テイル形が共に現在の習慣を表す場合があることを指摘し，例文を挙げて次のようにその違いについて言及している。

- 父はこの頃6時前に起きている（父はいつも6時前に起きる）
- 父は最近毎朝半時間ジョギングをしている（父は毎朝ジョギングをする）
- 日曜日には家にいて，油絵を描いている

「瞬間動詞の場合でも，継続動詞の場合でも，それを単一の事象を表すものとしてでなく，点の集まり，連続として理解するのは，そのことをうかがわせる文脈，あるいは状況があってのことである。その簡単な場合は，『コノ頃』『最近』のような語句の共起だが，また，ただ走っているのでなく毎日何キロとか，ただ描く動作だけでなく油絵とか水彩画とか，何か動作自体以外に特に意味のある内容が言われている」

(3) 文の文法的特徴，ないしは動詞の形態的な対立を整理せずにその機能と対応させることは乱暴であると考える向きもあろうが，語用論の立場からは文法（形式体系）と言語使用は補い合う領域とされているので，その枠組みの中で「る」に比べ，有標的な「ている」の持つ機能を明らかにしたいのである。

(4) 東京外国語大学留学生日本語教育センター編著「初級日本語」15課例文

(5) 金子（1985）pp.121

(6) 仁田（1992）は「（スル）ソウダ」を，①言表事態は第三者からの情報である，といった言表事態の仕入れ方，②第三者からの情報を聞き手に取り次ぐ，といった伝達性，の２つの意味特性から成り立っていると説明しており，このような伝聞が〈問いかけ〉の文になることはないと指摘している。

(7) 吉川（1971）

参考文献

金子比呂子　1985　「話しことばにおける『する』と『やる』」『ＩＣＵ夏期日本語講座論集２』国際基督教大学夏期日本語講座

寺村　秀夫　1984　『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版

仁田　義雄　1992　「判断から発話・伝達へ――伝聞・婉曲の表現を中心に」『日本語教育』77号

吉川　武時　1971　「現代日本語動詞のアスペクトの研究」Linguistic communication 9（金田一春彦編『日本語動詞のアスペクト』1976所収）

Leech, G. N. 1983 “Principles of Pragmatics”, Longman

The Function of "～ *to shite iru*"

KANEKO Hiroko

This paper attempts to analyse *"to shite iru"* from the point of view of the exchange of information.

The "ru" form of the verb and the "te iru" form of the verb have been explained to have almost the same function when they state everyday habits. However, they are distinguished by the quality of information coming before them. The "te iru" form of the verb is a marked expression requiring more highly information than the "ru" form, which means "te iru" has the function to store information.

Therefore, in the sentence of "S wa P to itte iru", the "te iru" form is used to keep information gotten from S, then to give it to readers or listeners in the form of quotation from S's statement. The same function is applied to *"～ to setsumei shite iru" "～ to nobete iru" "～ to hanasite iru"*.

The most remarkable expression to store and indicate information is "to shite iru". In order to illustrate this, some sample sentences using "to shite iru" were inspected.

The results are as follows:

1) "to shite iru" needs to be preceded by some information which is considered by the speaker to be particularly worthwhile informing others.
2) The subject of "to shite iru" is some institution (I) or some group of people (G), so that other dynamic verbs can not follow it.
3) "I or G wa/dewa Q to shite iru" resembles "S dewa/ni yoruto Q souda", which means "I heard the news from someone". However, "to shite iru" implies "we (mass media) got information from some institution or some group to inform you (readers or listeners)".

Thus, "to shite iru" which has function to store and give information is used by the mass media especially in newspapers or broadcasting.